

令和八年度 岡山学芸館高等学校 選抜 一期入試【二月二十三日】 問題（国語）

1

行方不明の両親を捜してキッチンカーで各地をめぐっている佳代は、ある温泉街で、旅館「水名亭」の元女将のばあちゃんと出会う。ばあちゃんは息子の正志に旅館を譲り隠居していたが、正志と対立し家を出た。次は、佳代が、ばあちゃんに料理をふるまい二人の間を取り持とうとする場面である。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

受験番号
算用数字

注意① 解答はすべて別紙の解答用紙に記入しなさい。

注意② 字数が指定されている設問では、「」や「。」も一まず使いなさい。

しばらく二人とも無言で口を動かしていった。早く話を切りださなくては、とは思うのだけれど、なかなか佳代が切りだせないでいると、ばあちゃんに先手をとられた。

「親御さん、捜しちよるそうやな」
不意打ちだった。

「あ、はい」

そう答えたきり言葉を呑み込んだ。

「退院するとき、家坂から写真を見せてもろてな」

家坂さんに預けたチラシのこらししい。

「つらい思い、したんやろな」

上目遣いで佳代を見る。その言葉が□□になった。いまこそ親子の話をしなければならぬ。そう思い定めて佳代は背筋を伸ばし、

「正志さんは、お母さんの思いをしつかり受け継いでいます」

勢い込んで告げた。今度はばあちゃんが言葉を呑み込んだ。

その②隙を突いて、佳代は一気に語りかけた。正志社長が『水名亭』の二代目として、いかに頑張っているか。いかに創業の精神を受け継いで経営に⑥精進しているか。そして、いかに母親のことを気にかけているか。必死の思いで伝えた。

ばあちゃんは箸を置いて俯いていた。なにを考えているのか、小さな背中を丸めてじつと黙りこくっている。

あたしの言葉は届いているんだろうか。不安になった。ばあちゃんは、あたしの言葉をちゃんと受け止めてくれていたんだろうか。急に自信がなくなつて、最後にもう一度たたみかけた。

「正志さんがどんな思いでお母さんを見守っているのか。その気持ちだけはわかってあげてほしいんです。そして、どうか意地を張らずに、正志さんのことを認めてあげてください」

それだけ言うと佳代は頭を下げた。あのとときの正志社長と同じように③深々と下げた。

ばあちゃんが顔を上げた。その目はどこか遠くを見ていた。佳代は待った。ばあちゃんの言葉を待った。すると、ばあちゃんはふと頬に手をあてがいて、

「④佳代ちゃんの親御さん、うちに来た気がするんだわ」

また佳代の話に切り替わっていた。

「違うかもしれん。違うかもしれんけど、あの写真の二人だと思っただわね。二人ともぼろぼろの格好しちよった。コミュニケーションやらがだめになったから雇うてくれ言うて、『水名亭』にやつてきよった。なんでもやる、言うてな」

唐突な告白だった。

「けど、わしは断わつた。あんたらは、あんたら理想のためにコミュニケーションやらをはじめたんだがや？ いまの世の中はいかんことになつちよるけん、新しい世界をつくる言うてははじめたんだがや？ それがうまくいかんから、すぐ逃げよるくらいやつたら、最初からやらなんだらええがな。そう言うて断わつたがね」

そのとき、女性は子を宿していたという。お腹の子のためにも、いま逃げたらいけん。あんたらは二人やないかね。二人で力を合わせたら、なんでもできるやないかね。そう言い聞かせて、ばあちゃんは餞別を包んで二人を追い返した。

「冷たい仕打ちやつたかもしれん。けど、あそこで突き放さなんだら二人はだめになる思うたけん、わしは突き放したがね。わしだつて行商はじめた時は幾度挫けそうになつたかわからん。けど、世間様から突き放されるほど熱うなつたけん」

ばあちゃんは唇を噛んだ。

佳代は黙っていた。どんな言葉を返しても嘘っぽく聞こえる気がして、言葉にできなかつた。ばあちゃんが続けた。

「だけん、⑤正志も突き放してやらないかんと思つた。東京のホテルがどんだけのもんか知らんかつたけど、新しいことをやるんやつたら反対するもんがおらんといかんし、新しい『水名亭』をはじめめるからには、わしがおつたらいかん。従業員に示しがつかん。そう思うたがや」

わかるがや？ とばかりに佳代の目を見据えてきた。佳代もばあちゃんの目を見据え返した。そして、思いの丈を込めて目顔でうなずいた。

ばあちゃんが、ふつと肩の力を抜いた。打つて変わった静かな笑みを浮かべた。と同時に再び箸を手にすると、

「どれ、呼ばれよか」

佳代に確認するように、吹き、角切りにしたコシナガの刺し身をひよいと一切れつまみ上げた。

出典 原宏『佳代のキッチン』

（注）退院：ばあちゃんは前日まで腰痛で入院していた。

家坂：水名亭の仲居。佳代は両親捜しのチラシを作っており、それを家坂に渡していた。

あのとときの正志社長：正志は、佳代に、母の志を受け継いで経営していることを伝えてほしいと頭を下げていた。

コミュニケーション：ここでは、若者たちによって形成された、共同生活を基盤とするコミュニティ。1960年代後半～70年代前半に全国各地に誕生した。

目顔：目の表情。目つき。呼ばれよか：こちそうになりましょうか。コシナガ：魚の名前。

① ———の部分②・③の漢字の読みを書きなさい。

② □□に入れるのに適当なことはア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 呼び水 イ 冷や水 ウ 藪蛇 エ 蛇足

③ 「深々と下げた」とあるが、ここで佳代が伝えたかったことを説明した次の文の□□に入れるのに適当なことを三十字以内で書きなさい。

正志さんの□□ということ。

④ 「佳代ちゃんの親御さん、うちに来た気がするんだわ」とあるが、佳代の両親に会ったときのばあちゃんの気持ちを説明したものとして適当でないのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 二人で力を合わせたらなんでもできるのだから、お腹の子のためにもいま逃げ出すのはよくない。

イ いまの世の中への不満から自分たちがやりたくてはじめたことなのに、すぐに逃げ出すのはおかしい。

ウ 自分たちの理想のためにははじめたコミュニケーションはきつとうまくいくから、いまあきらめてはいけない。

エ 自分たちではじめたことをうまくいかないからといってすぐに逃げ出すくらいなら最初からやらないほうがいい。

⑤ 「正志も突き放してやらないかんと思つた」とあるが、ばあちゃんが正志を突き放した理由を説明した次の文の□□、□□に入れるのに適当なことばを、□□は五文字で文章の中から抜き出して書き、□□は「従業員」ということばを使って、三十五字以内で書きなさい。

ここで助けたりすれば本人が□□と思つたほか、新しい『水名亭』をはじめめるにあつては、□□から。

⑥ この文章の表現の特徴について説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 「小さな背中を丸めて」という表現は、ばあちゃんが佳代の言葉にかたくな耳をふさいでいる様子を暗示している。

イ 「佳代は待った。ばあちゃんの言葉を待った」という表現には、自分の気持ちが伝わったという佳代の確信が込められている。

ウ 「思いの丈を込めて目顔でうなずいた」という表現は、両親の話を聞いた佳代の、もっと詳しく聞きたい気持ちを表している。

エ 「どれ、呼ばれよか」という表現は、ばあちゃんが伝えるべきことは伝えたと思ひ、話を切り替える様子を示している。

令和八年度 岡山学芸館高等学校 選抜 一期入試【二月二十三日】 問題（国語）

2

次は、オルゴールについて齋藤孝が書いた文章である。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

きつちりと歯車が噛み合って力が伝達されていくのを見るのは気持ちがいいものだ。とくに、自分が加えた力が歯車を伝わって方向が転換していくのを見るのは楽しい。自転車のギアチェンジが楽しいのもこの快感だ。

だから、オルゴールは中身が見えるものが私は好きだ。ねじを回すと、いくつもの歯車が連動して動き出す。そして、金属でできた筒を回すことになる。この筒にはいくつものトゲが生えていて、このトゲが音階板に引っかかって弾き、音を出すことになる。ずっと見ていても本当に飽きない。

オルゴールはもの悲しい。そのもの悲しさは砂時計や火花に似ている。砂時計は、見えるはずのない時間の流れが砂というはつきりした物の動きで表現される。こぼれ落ちていく砂を見るのは、命が滑り落ちていくようでもの悲しい。しかし一方で、見ていると落ち着いてもくる。

礫木は、「命なき砂の悲しさよ／さらさらと／握れば指の間より落つ」と詠った。砂時計には日時計にはないもの悲しさが漂っている。砂時計を見つめる感じは、オルゴールを聴くときの感触に似ている。火花も派手だがどこかはかなさが漂う。

打ち上げ火花がドーンと鳴った後は、カ・タ・ル・シ・スという感じですつきりする。カタルシスとは、ギリシヤ語の元の意味で「排泄」である。すつきりとする快感が火花の大きな音にある。

子どもの頃、安倍川の火花大会によく行った。河原まで行くと、音がドーンとからだに響いてくる上に、上から火の粉が落ちてきて楽しい。河原に寝っころがっていると、地響きのように下からも音が響いてくる。

火花の醍醐味は、美しい夜空に描かれた花に一瞬ずれてやってくる音の響きだ。美しさの印象を、からだにキョウレツに刻印させるかのように、音がからだを貫く。とどめを刺すという感じだ。尺玉はシンプルだが、火花の王道だろう。

火花が鳴り終わった後の夜空は寂しい。しかしその寂しさは、オルゴールを聴いているときのようなもの悲しさではない。もう少しすつきりとしたものだ。オルゴールの方は、もっと哀れさを誘う弱々しさがある。

オルゴールと火花を並べて考えていてふと思ったのだが、火花の中にもオルゴール的なものがある。さて、オルゴール的な火花とは何でしょう（別に深く考えなくて結構です）。

オルゴールの音楽がもの悲しいのは、それが「すでに終わっている音楽」だからだ。音楽は、生まれ出てくるところに生命がある。次の音が生み出されるまでの沈黙が、時間をつくる。

しかし、オルゴールの場合は、音楽の流れがすでに、トゲの生えた丸い筒にモノとして凝固してしまっている。本来時間的な芸術である音楽が、モノに固まってしまっているのだ。これは、音楽としては哀れな状態だが、私はこの「時間が凝固した状態」が好きだ。小さなトゲの一つひとつの間隔が音の間を表している。トゲに似た狭い世界だが、それゆえの落ち着きもある。

さて、「オルゴールな火花」の話に戻るが、これは、私が思うところでは、線香火花だ。線香火花は、火花のわりには終わり方がはつきりしない。時間の流れの中で味わうものだ。パチパチと途切れながら瞬く様子は、トゲに弾かれて音階板が一つずつ寂しげに鳴るオルゴールの音と似ている。

線香火花は火花の中で最も音楽的だ。火花と火花の間が音楽になっている。一本の火花の火花を音符に変えることができれば、一本ごとに曲が仕上がるだろう。線香火花の束は、凝固した音楽の束にも思えてくる。

線香火花が「オルゴールな火花」であるのは、その終わり方の哀れさにもある。オルゴールは、だんだんとねじの勢いが緩くなり、最後に曲の途中なのに寂しくぼつんと終わってしまう。キリのいいところで終わるといことはほとんどない。

線香火花も、終わり方があつけない。まだもう少しいけるかなと思っっているうちに弱まり、突然何かが断ち切られたように、ポトツ

と下に落ちて終わってしまう。その途切れ方は、打ち上げ火花のドーンとした感じとはまったく違うもの悲しさだ。火花遊びのラストを、打ち上げのロケット火花にするか線香火花にするかは、趣味の分かれるところだろう。オルゴールに心引かれてしまう私は、やはり線香火花派だ。

火花とオルゴールをイメージで重ね合わせるのは突拍子もないと思われるかもしれないが、宮沢賢治は電信柱のオルゴールというイメージをつくっている。電信柱から出ている鉄の出っ張りオルゴールのトゲのようだとしたことだろうか。「風景とオルゴール」という詩もある。オルゴールは心象風景を揺さぶるものなのだ。出典 齋藤孝『発想力 あなたの発想力を豊かにする29のヒント』

（注）礫木：石川礫木（一八八六一一九二二）岩手県出身の歌人。安倍川：静岡県静岡市を流れる川。尺玉：直径が一尺（約三十センチメートル）の大型打ち上げ火花。

① ーの部分**㉑**・**㉒**を漢字に直して楷書で書きなさい。

② 「**㉓**」の品詞は、**ア**ウ**エ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。
ア 形容詞 **イ** 助詞 **ウ** 動詞 **エ** 助動詞

③ 「**㉔**」すでに終わっている音楽」とあるが、筆者がオルゴールの音楽をそのようにとらえる理由として最も適当なのは、**ア**～**エ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。
ア オルゴールの音楽は、筒のトゲが音階板を弾くことで音がでるため、演奏者の感情が込められておらず、機械的で味気ないものになってしまうから。

イ オルゴールの音楽は、音楽の流れが筒にモノとして固定されているため、時間の流れの中で生まれ出るとい音楽本来のよさを失ってしまったているから。

ウ オルゴールの音楽は、ねじの勢いによって演奏されるため、次第に遅くなったり、最後まで演奏されなかったりすることが多く、完成度が低いから。

エ オルゴールの音楽は、同じ曲が同じ音色で何度も繰り返し演奏されるため、新鮮さがなく、聞き手にとって退屈で物足りないものになってしまうから。

④ 筆者が線香火花を「オルゴールな火花」だと考える理由について説明した次の文の□□に入れるのに適当なことを、「瞬く」「終わり方」ということばを使って、三十字以内で書きなさい。

線香火花の□□がオルゴールと似ているから。

⑤ 筆者とオルゴールについて説明した次の文の□□、□□に入れるのに適当なことを、**X**は八字、**Y**は十一字で文中から抜き出して書きなさい。

筆者は、オルゴールの中でも□□が好きで、オルゴールは□□だと考えている。

⑥ 本文の内容を説明したものとして最も適当なのは、**ア**～**エ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 礫木の「命なき砂の悲しさよ」の短詩は、砂に静かな美しさを見いだし、永遠に消えない確かな存在を感じ取っている。

イ オルゴールは、自分が加えた力が歯車を伝わり音を鳴らすところに、砂時計をひっくり返す瞬間に似た楽しさがある。

ウ 打ち上げ火花は、目で見える美しさではなく全身で感じる音の響きがあつつきりとする快感を感じさせている。

エ 宮沢賢治は電信柱の鉄の出っ張りをオルゴールのトゲに見立てた、電信柱のオルゴールという独特なイメージを作った。

3

次は、『枕草子』の冒頭部分とそれについての文章である。これを読んで、①～④に答えなさい。

受験番号
算用数字

春はあけぼの。やうやうしろくなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、闇もなほ、螢のおほく飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

秋は夕暮。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥のねどころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど飛びいそぐさへあはれなり。まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。

冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火などいそぎおこして、炭持てわたるも、いとつきつきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も、白き灰がちになりてわろし。〔『枕草子』より〕

さて、この文章のどこがそれまでの文章と違って斬新なのでしょう
 ようか？ 第一に、風景を正面に据えて描写していること。第二に、その風景が誰も思いつかないような視点から描写されていること。この二点です。それぞれ、もう少し具体的に述べてみましょう。

まず、第一の点について。『枕草子』以前に、風景を正面に据えて、そのすばらしさを描写した散文は、皆無です。『枕草子』以前の仮名で書かれた散文学としては、『土佐日記』『蜻蛉日記』『竹取物語』『うつほ物語』『落窪物語』がありますね。韻文と散文の中間的な位置にある歌物語の『伊勢物語』『大和物語』も入れておきましょう。

これらの作品を隅から隅まで読んでも、風景を正面に据えて書いた文章は見当たらないのです。風景に触れる文章はあるのですが、それは物語の展開に必要なものばかりです。現実の風景そのものを正面に据えてそれを描写しようとしているわけではありませぬ。たとえば、『竹取物語』の蓬萊の玉の枝を探しに行った時に出てくる風景は、登場人物のくらもちの皇子の捏造した架空のものです。彼は、実際に蓬萊の山に行っていないのですから。

また、『うつほ物語』に出てくる風景も、琴の音のすばらしさを称えるために作り出された架空の風景です。琴の音があまりにも感動的なので、山が崩れたり、大きな布団くらいの大さきの雪が降ってきたりする。現実にはありえない風景です。

『土佐日記』は、紀行文的な日記なので、風景そのものを正面に据えた描写があってもよさそうなものですが、全く見られません。海が荒れたという記述はあるのですが、その時の船から見た海の情景などは描かれていない。『蜻蛉日記』でも、風景は出てくるのですが、それは自分の心の在り方をうつつすための手段です。それに対して、『枕草子』の文章は、現実の風景を正面に据えて、その魅力を描写している。これが、ものすごく画期的な点です。絵画の世界でたとえてみると、それまで人物画が主流であったのに、突然、風景画を描いた人が出たという感じですね。

次に、第二の、清少納言の風景を切り取る視点が実に斬新であることを説明しましょう。

たとえば、私たちが「春で最も感動的な風景を一つあげてください」と人に言われたとします。あなたは、どんな風景をあげますか？ 多くの人は「桜の咲き乱れた風景」と答えるでしょう。私もむろん、その風景を例示しそうです。絢爛豪華に咲き乱れる桜の美しさは、何といっても感動的ですからね。

でも、清少納言は、春で最も感動的なのは「あけぼの（＝夜明けの頃）」と言います。時間の観点から切り取った風景を提示する。思わず「えっ」と意表を突かれます。山ぎわがだんだん白んでいって、やがて空がほんのり明るくなって、紫がかった雲が細くたなびいている。最高よね、なんて言う。風景といっても、刻々と変わりゆく自然美をあげるのです。だから、ものすごく新鮮。

とめて（＝早朝）。すべて、時間の観点から切り取られた風景です。そして、刻々と移り行く自然美を的確に鮮明に描写している。実に巧みです。誰が、時間の観点から風景をとらえようと思うのでしょうか？ 清少納言に一本取られた感じがします。

刻々とうつりゆく風景の美しさは、絵画でも決してとらえることができない。絵画は、ある一瞬の静止画だからです。『枕草子』は、絵画でもとらえられない風景を文字で写し取っているのです。

出典 山口仲美『千年たつても変わらない人間の本質』

（注）紫だちたる…紫があった。 さらなり…言うまでもない。あはれなり…心が動かされる。感動的である。さらでも…そうでなくても。雪や霜がなくても。つきつきし…似つかわしい。ふさわしい。

火桶…炭火を入れて暖をとる道具。散文・韻文…散文は普通の文章、韻文は詩や短歌、俳句など。捏造…ありもしないことを事実のように仕立て上げること。

① 『枕草子』の冒頭部分で、清少納言が冬の朝のすばらしさの例として挙げているものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 雪が降り積もった早朝の山々の風景と、霜で真っ白になった草木の美しさ。

イ とても寒い日の早朝に、火をつけた炭を持って家の中を行き来する人の姿。

ウ 早朝の寒さが昼になってゆるんで、火桶の火が白い灰になって燃え尽きていく様子。

エ 庭を覆う雪や霜の美しさと、雪の降る日の早朝に人々が慌てて火をおこす様子。

② 「この文章のどこがそれまでの文章と違って斬新なのでしょうか？」とあるが、『枕草子』とそれまでの文章の説明として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 『枕草子』以前の作品では風景に触れる文章は皆無であったが、『枕草子』では刻々と移り行く風景が描かれている。

イ 『枕草子』以前の作品の風景描写は無味乾燥なものであったが、『枕草子』では風景描写を借りて作者の心情が描かれている。

ウ 『枕草子』以前の作品で架空の風景の描写は未熟であったが、『枕草子』では実際に見ているかのように鮮明に描かれている。

エ 『枕草子』以前の作品で風景描写は場面の状況説明でしかなかったが、『枕草子』では風景の魅力が的確に描かれている。

③ 清少納言の文章についての筆者の考えを説明した次の文のX、Yに入れるのに適当なことばを、それぞれ十五字で文章中から抜き出して書きなさい。

清少納言の文章には、現実のXがあり、Yが描かれていた点筆者は評価している。

④ 中学三年生の早紀さんは、この文章を読んで次のような感想を書いた。I、IIに入れるのに適当なことばを、Iは「あけぼの」ということばを使って、十字以上、十五字以内で書き、IIは八字で文章中から抜き出して書きなさい。

『枕草子』の冒頭は、あまりにも有名で私も読んだことがあります。筆者は、清少納言が春の感動的な風景として、一般的なIをあげていることが斬新で、意表を突かれたと述べていますが、たしかに独特な感性だなあと改めて気づくことができました。この文章の筆者が述べているように、IIである絵画では表現できない美しさを文字で表していることは、私もすばらしいと思います。

4

四人の中学生が、「ごみの削減」をテーマとするグループ学習で、【資料Ⅰ】～【資料Ⅲ】をもとに話し合いをした。次の【四人の中学生の話し合い】を読んで、①～④に答えなさい。

【四人の中学生の話し合い】

涼 今日、ごみの削減について話し合うよ。資料をもとに対策を考えていこう。

由芽 【資料Ⅰ】を見て。ごみ削減のために実行していることは何かをA市に住む人に聞いた結果をまとめたものだよ。これを見ると、**X**ことがわかるよ。そこから考えると、もう少し改善の余地があるといえるんじゃないかな。晴子さんどう思う？

晴子 賛成。大体ではなく、常に実行している人が増えるといいよね。でも、そもそもごみはなぜ減らす必要があるんだっけ。

朝日 暮らしへの直接的な影響としては、ごみの最終処分場が限界に近いことだね。環境省の発表によると、2024年度で残り23・4年らしい。ごみが捨てられなくなるんだ。

涼 資源の面から見ると、プラスチックの原料であり、輸送エネルギーでもある石油にも限りがあるからね。

由芽 適切に処分されなかったプラスチックごみによる海の汚染や海洋生物への影響も大きな社会問題になっているよね。

晴子 捨てる場所も資源も有限、環境汚染も深刻ってことか。そういうことだね。【資料Ⅱ】を見てくれる？自治体が行った海洋ごみの発生を抑制する対策として効果が感じられたものは何かを聞いたものだよ。

由芽 海洋ごみを減らすのに、海岸以外の場所での清掃活動に効果があるんだね。

朝日 海洋ごみで最も多いのがプラスチックごみなんだけれど、そのうちの八割は陸から出たものだと言われているんだ。

晴子 街で適切に廃棄されなかったプラスチックごみが、風や雨で川に流されて海のごみになってしまっただよ。

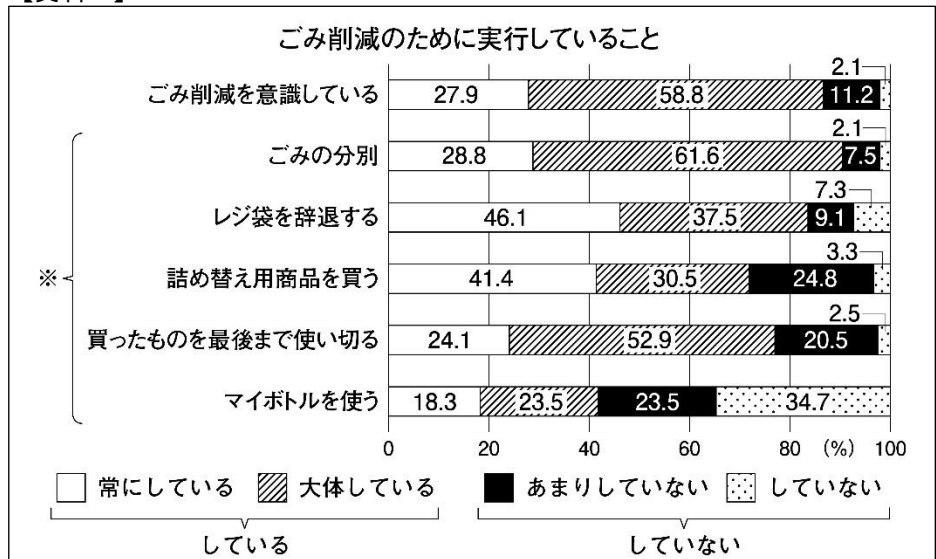
由芽 なるほどね。海に入ってしまったら回収が難しいから、その前で食い止めようってことか。

朝日 そうだね。ところで提案なんだけれど、先程確認したごみを減らす理由をふまえて、そのために何が有効かを考えてみるのはいかがかな。

涼 いいね。ごみを減らす意義がはつきりするよ。では【資料Ⅲ】を見てくれる？ごみ削減で何を指すべきかを簡単にまとめてみたよ。これをもとに考えてみよう。

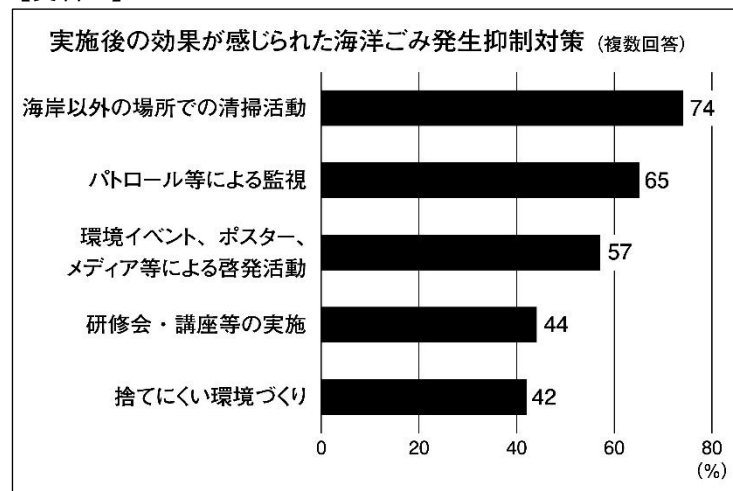
晴子 私は**Y**を意識しようと思う。具体的には、**Z**。

【資料Ⅰ】



A市 ごみの削減に対する意識調査により作成
(※はごみの削減を意識していると回答した人による回答。)

【資料Ⅱ】



環境省 令和5年度実績 海岸漂着物処理推進法施行状況調査結果により作成
(実施自治体数に対する効果が感じられたと回答した自治体の割合)

【資料Ⅲ】

ごみ削減で目指すこと

ア 今ある施設を次世代へ残すこと
イ 人々の健康を守ること
ウ 限りある資源を残すこと
エ 自然や生態系を守ること

- ① 「削減」とあるが、「削減」と熟語の構成が同じなのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
ア 温泉 イ 就職 ウ 興亡 エ 価値
- ② 由芽さんの意見が論理的なものとなるために、**X**に入れるのに最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
ア マイボトルを常に使っていると回答した人の割合は、常に使っていないと回答した人の半分以下である
イ 取り組んでいる人が最も多いのはごみの分別で、これ以外に取り組んでいる人が八割を超える項目はない
ウ ごみ削減を意識している人は全体の八割を超えるが、ごみ削減を常に意識している人は三割に満たない
エ 買ったものを最後まで使い切ることをしていないと回答した人は、常に最後まで使い切る人と回答した人より多い
- ③ 話し合いにおける四人の発言の特徴について説明したものとして適当なのは、ア～オのうちではどれですか。当てはまるものをすべて答えなさい。
ア 涼は、ここまでの発言を補足してまとめたのち、新たな資料を提示して話し合いを次の話題へと進めている。
イ 由芽は、資料について自身の考えを述べ、それに答えてくれた朝日や晴子の発言を自分の言葉で言い換えている。
ウ 朝日は、疑問に答えたり、自分から疑問を投げかけたりしつつ、話し合いをまとめるための提案を行っている。
エ 晴子は、呼びかけに答えたりうえてみんなに疑問を投げかけ、答えのわからない部分について重ねて質問している。
オ 朝日は、他の人の疑問に答えたり、資料の内容を補ったりするために、具体的な数値を示している。
- ④ 晴子さんの発言の**Y**、**Z**に入れるのに適当な内容を、**Y**はあなたが関心のある項目を【資料Ⅲ】ア～エのうちから一つ選んで答え、**Z**は条件に従って六十文字以上八十文字以内で書きなさい。
条件
1 二文に分けて書き、一文目に、**Y**で選んだことのために具体的に何をしたらいいと思うかを書くこと。
2 二文目に、その行動が、**Y**で選んだことによいような効果があるのかを「そうすれば、」に続けて書くこと。